

項目	
----	--

令和2年9月2日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

内容

生

1. 国内

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会8月下旬実施)によると、7月の推計実績は、処理羽数59,358千羽(前年比102.7%)・処理重量177.3千ト(同101.9%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同102.0%)・処理重量(同99.4%)とも上回った。非常事態宣言の解除で外食需要も回復の兆し等がみられ、国産鶏肉は在庫薄もあり、計画より早出しでの対応があったと思われる。しかしながら、猛暑の影響等で羽数の伸びに対し重量ペースでの伸びは下回った。廃棄合計も3.19%と前年同月より0.19%上回った。

(2) 8月は処理羽数(前年比98.9%)・処理重量(同99.1%)と早出し対応の影響が前月時点の予測(同99.0%・同99.3%)より若干下回る計画。9月の処理羽数(同104.4%)・処理重量(104.9%)、および10月の処理羽数(同101.9%)・処理重量(同102.0%)はともに暑さと和らぐことから順調な生産になると思われる。しかしながらこの時期、台風被害に見舞われることがここ数年見受けられていることが懸念材料である。

産

2. 輸入

(1) 財務省8月28日発表の貿易統計によると、7月の鶏肉(原料肉)輸入量は51.6千ト(前年比96.9%)で、日本食肉輸入入協会の現地積み出し数量と検疫数量をもとに出した予測(48.4千ト)を約3.2千ト上回り、前月に続き50千トを超えとなった。国別ではブラジルが予測を約3.6千ト上回る40.56千ト(同102.2%)、タイは逆に約0.4千ト下回る9.65千ト(同82.3%)となった。1〜7月累計でも317.3千ト(同101.2%)と前年を上回った。同協会(8月24日)鶏肉輸入動向検討委員会を书面で開催)によると8月は44.9千ト(同88.9%)、9月は45.4千ト(同84.7%)との予測を公表した。仕向け先の主力が飲食店等の外食向けのため、コロナ禍による営業規模縮小が反映されてか両月とも大幅に下回る見込み。

(2) 鶏肉調整品の7月輸入量は38.38千ト(前年比82.3%)と、前月より約3.2千ト減少した。国別ではタイ産が前月比約2.2千ト減少し前年比90.6%の24.9千ト、中国産も前月比約1.1千ト減少の12.95千ト(同69.0%)となった。1〜7月累計でも前年比94.2%と外食需要等の減少が影響し、下回った。8月以降についても、流動的で中国の動向次第ではあるが国内向け需要増もあり調整品全体の輸入減少が見込まれる。

需

1. 家計消費

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、6月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は、4,044kg(前年比108.4%)、金額は5,897円(同111.2%)となった。前月からの増加幅は縮小したものの3畜種とも前年を上回った。牛肉は数量(同107.4%)・金額(同111.4%)とも上回り、豚肉も数量(同106.4%)・金額(同111.2%)とも上回った。鶏肉についても同様で牛肉・豚肉に比べ安価なこと等で前月に引き続きテーブルミート等の販売が順調で数量(同111.3%)、金額(同111.0%)とも前年を大きく上回った。また加工品についても同様でハム(同104.2%)、ソーセージ(同104.1%)の数量が増加した。

要

2. 量販・卸

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、7月の食品売上高は全店ベースで前年比107.4%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比112.2%、既存店ベースでも同110.7%と上回った。畜産部門の売上高は1,116億円で全店ベース(同111.1%)、既存店ベース(同109.5%)とも前月に続き上回った。「引き続き家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、外食の自粛による影響も加わり、全般的に好調となった。なかでも牛肉は国産価格が低下傾向にあり販売数量が大きく伸びており、焼肉やステーキ用の大容量商品や和牛など高単価商品の動きがよかった。国産豚肉や鶏肉は相場が上昇しており伸び悩んだ店舗もみられた。ハムソーセージなど加工品ギフト用は不振だが、一般商品は堅調な販売動向が続いている。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同101.1%)・既存店ベース(同100.2%)とも前年を維持したものの、「外出自粛による行楽向け、イベント中止による大人数用総菜、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止が影響した。一方で土用丑の日関連で弁当・蒲焼は好調に推移、寿司類は回復傾向もみられた。」と報告があった。

3. 業務・加工筋

(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる6月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.1%の4.69千トとなった。うち国内物は同103.5%の4.00千トと上回ったものの、輸入物が同94.5%の0.689千トと大きく下回った。1〜6月累計では国産物は同104.1%と上回っているものの、輸入物が同81.3%と大幅に下回り合計では同99.9%となった。加工用としての輸入が減少したのもと思われる。鶏肉加工品は7月以降も引き続き家庭内需要や中食需要の高まりから動きも堅調と考えられ、逆に中国等からの調整品輸入が減少となっていることを考えると引き続き国産物での製造量増加が期待できると考えられる。

在

1. 令和2年6月

(1) 推計期末在庫は国産18.6千ト(前年比60.7%・前月差△2.55千ト)、輸入品152.2千ト(同123.7%・同+3.97千ト)と合計で170.8千ト(同111.2%・同+1.42千ト)となった。生産量が2.4千ト増加し、輸入量も14.5千ト増加した。国産品の出回りが生産量を上回ったため、国産品の在庫は減少した。輸入品は、外食関連の需要が若干回復し出回りが約14.3千ト増加の46.68千トも輸入量が上回ったため在庫は増加し、前年よりもさらに上回った。

庫

2. 見通し

(1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(8月27日公表)では、7月は国内生産量が前月より減少(△7.7千ト)し、輸入量も前月比で約2.3千ト減少、出回量も前月比で約8.0千ト減少するものの期末在庫は約163.9千トと前月より約6.9千ト減少し、前年(156.6千ト)より約4.4%増加の見通しとなっている。

(2) 8月は前月比で生産量が前月並み(△0.6千ト)、輸入量はブラジル中心に約3.5千ト減少、出回量は約1.6千ト増加するため期末在庫は国産・輸入品合計で約6.2千ト減少の約163.9千ト(前年比104.4%)と予測されている。9月は生産量が約9.8千ト減少し、輸入量は約0.5千ト増加、出回量については約1.7千ト減少するものの、在庫は4.9千ト減少の約159.0千ト(前年比96.7%)と予測されている。今後も新型コロナウイルスの影響による需給動向に注視が必要である。

相

1. 8月動向

(1) 8月の平均相場は、もも肉596円/kg(前月比△24円)・むね肉272円/kg(同+11円)正肉合計で868円/2kgと前月比で9円上回り、前年比でも108円上回った。もも肉は月初588円で始まり、月始めおよび盆休み後に乱高下があったものの高止まりで推移し月末599円と結果+11円高で推移した。むね肉も、月初263円から一時281円と上昇し、多少変動したが月末278円と15円高と上げ基調の推移となった。外出自粛および猛暑等もあり内食需要が引き続き強く量販店等からの引き合いに左右された格好になったと思われる。

場

2. 見通し

(1) 9月は、気象庁発表による向こう1か月の気温が全国的に暖かい空気が流れ込みやすいため高く、特に前半は高いと予報されている。今た新型コロナが先行き不透明で予測がつかない中、大型連休が控えているため、もも肉は月平均600円のやや上昇と予測する。むね肉については、加工筋からの引合いも堅調であるが、保ち合い圏内の月平均270円と予測する。

(2) 今年1月WHOが新型コロナウイルスを確認してから早8か月、いまだ地球規模で猛威を振るう中、日本でもいまだ緊張感が継続している。外食自粛ムードの長期化により国産鶏肉は内食需要の高まりで、量販店・生協等からの引き合いも強く、10月以降も高水準の相場が見込まれる。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R2年7月推計実績		R2年8月計画		R2年9月計画		R2年10月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	62,776	102.7%	62,475	98.0%	66,982	102.9%	63,234	97.9%
処理羽数	59,358	102.7%	56,858	98.9%	58,974	104.4%	63,193	101.9%
処理重量	177.3	101.9%	165.7	99.1%	173.0	104.9%	188.5	102.0%

※参考資料: 全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年4月	46.7	47.3	98.8	44.4	44.8	99.1	91.1	92.1	98.9	51.3	48.7
R2年5月	36.1	46.6	77.5	36.6	41.0	89.2	72.7	87.6	83.0	49.7	50.3
R2年6月	50.7	43.4	116.8	41.6	39.0	106.7	92.2	82.4	112.0	54.9	45.1
R2年7月	51.6	53.2	96.9	38.4	46.6	82.3	90.0	99.8	90.1	57.3	42.7
R2年累計	317.3	313.4	101.2	275.0	291.8	94.2	592.3	605.2	97.9	53.6	46.4

※参考資料: 全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年4月	1,805	1,365	132.2	1,574	1,271	123.8
R2年5月	1,716	1,418	121.0	1,578	1,296	121.8
R2年6月	1,599	1,437	111.3	1,408	1,268	111.0
R2年平均	1,583	1,412	112.1	1,438	1,302	110.4

※参考資料: 総務省統計局HP

相場(年別・暦年)

単位:円

	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828

在庫状況

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年3月	31.1	27.7	112.5	139.3	124.7	111.7	170.4	152.3	111.9
R2年4月	27.2	30.7	88.5	144.5	122.4	118.0	171.7	153.2	112.1
R2年5月	21.1	30.7	68.8	148.3	122.1	121.4	169.4	152.8	110.9
R2年6月	18.6	30.6	60.7	152.2	123.0	123.7	170.8	153.6	111.2

※実績参考資料: 畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別)

単位:円、%

品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年5月	609	583	104.5	254	227	111.9	863	810	106.5
R2年6月	610	561	108.7	257	226	113.7	867	787	110.2
R2年7月	598	543	110.1	261	222	117.6	859	765	112.3
R2年8月	596	535	111.4	272	225	120.9	868	760	114.2
R2年9月	(600)	544	110.3	(270)	235	114.9	(870)	779	111.7
R2年10月	(610)	556	109.7	(270)	254	106.3	(880)	810	108.6
R2年平均	599	594	100.8	255	237	107.6	854	831	102.8

※()は見通し
※1-8月平均